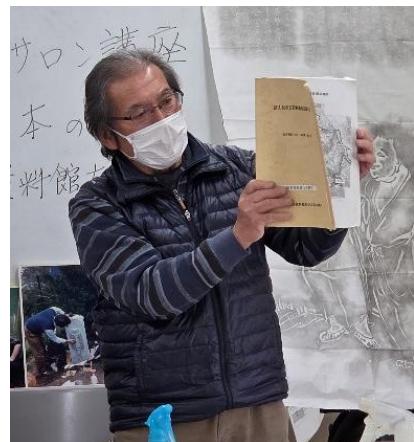


第5回 「拓本の制作」

日時：1月26日(月)午後1時30分から3時 場所：鶴瀬公民館いきいき活動室
講師：資料館友の会拓本部会 受講者：5人



講座は、「拓本とは」の説明から始まった。拓本は、墨と紙を用い、石碑などに刻まれた銘や文字を、その凹凸を利用して写し取る技法のこと。拓本の起源は、中国の漢の時代（紀元前206年～紀元前220年）までさかのぼる。この時代、人々は石の表面に紙を押し付け、墨や木炭でこすることで、石に刻まれた文字や画像を写し取る技術を開発しました。この技術により、文字や画像が正確に保存されるようになり、文化財を広く研究・共有することが可能となりました。日本では、奈良時代に中国との文化交流によって拓本の技法が伝わりました。平安時代（794-1185）に普及し、仏典や寺院の記録を保存、普及するために不可欠な手法となりました。資料館友の会拓本部会は、富士見市で40年の歴史を持っている会で、毎年拓本を取りに遠方まで行かれているそうです。

説明の後、実際に受講生一人ひとりが拓本制作にチャレンジしました。慣れない手つきながら作品が出来上がると皆さん笑顔になっていました。奥深さを感じる制作体験でした。
(レポート/金田)